

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カトマンズにおける児童労働の予防及び削減のための環境が改善する
(2) 事業内容	カトマンズ盆地内にある3つの市、カトマンズ、ラリトプール、キルティプールの行政の能力強化を目指した活動および、雇用主側、一般市民への啓発活動を通じて、小規模レストラン、茶店における児童労働削減を目指した事業を、2011年11月よりN連事業として実施している。本年時の具体的な活動は、以下の通り進んでいる。 1. 児童保護委員会(CPC)による児童労働モニタリング活動の実施とソフト支援 3市における月例会議の実施を継続支援した。また、カトマンズ市における区レベルのCPCの形成支援と形成後のオリエンテーションを実施し、その後の月例会議の実施も支援している。また、モニタリング支援の一環として、モニタリング・ガイドラインの策定も支援した。 第2年次から支援を行なっている、カトマンズ市に対する中期戦略(5カ年)策定へ向けたコンサルティングも、継続して実施した。3月には、中期戦略策定のためのワークショップが実施され、52人が参加した。本ワークショップで収集された意見は、中期戦略に反映される予定である。さらに、同月、子どもから意見を聞くためのワークショップも実施した。カトマンズ市では6月に中期戦略案をまとめた。 2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン 広くマスに訴える目的として、テレビCMの放送を行なった。また、啓発用のドキュメンタリービデオを作成中である。さらに、6月12日の児童労働反対世界デーに際しては、大規模行進や、児童労働をテーマとした子どもによる詩やエッセーのコンテスト等を実施した。また、カトマンズ盆地内5市は、「児童労働のない市を目指そう!」というスローガンのもとに共同声明を発表した。さらに、反児童労働を訴える国家レベルのメディア会議も実施された。 雇用主を対象とした、「子どもを働かせない宣言文」の策定へ向け、元児童労働者への聞き取りと、関係者を招いてのワークショップ(参加者37人)を実施した。 3. 緊急救援【自己資金での実施】 MCPC、WCPC、警察、労働局の担当官、チャイルド・ヘルプ・ライン等が連携し、緊急性が高いと判断された子どもの救出、保護活動を実施した。

(3) 達成された効果	1. CPCによる児童労働モニタリング活動 各市とも、モニタリングのための定期会合が毎月実施された。但し、キルティプール市については、年度末となる6月は、時間的調整がつかず実施されなかった。また、カトマンズ市では、モニタリング活動の促進を目的として、7つの区において、区レベルのCPC(WCPC)が結成された。 3市のMCPCメンバーにより、モニタリング・ガイドラインの案文が策定された。 2. 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン 児童労働反対世界デーの行進には5,000人以上が参加し、広く一般市民にメッセージを伝えることができた。また、子どもによる詩やエッセーのコンテストに参加した生徒は100人以上にのぼった。 3. 緊急救援 20人の子どもの救出及び支援が実施された。
(4) 今後の見通し	CPCによる児童労働モニタリング活動は、今後も継続して、定期的かつ効果的な活動の実施へ向けて支援していく。また、モニタリング・ガイドラインの完成を目指す。カトマンズ市の中期戦略については、2015年1月のボード会議での通過を目指し、継続支援する。 雇用主、一般市民を対象とした啓発キャンペーン、および、緊急救援も、引き続き継続して実施していく。 なお、児童労働のモニタリングに際して雇用主からの抵抗を受けることもあるが、これまでの経験の蓄積と工夫により、子どもを置いている雇用主もかなり話を聞くようになってきている。抵抗が非常に悪質な場合は罰金を科す対応も取っているが、このようなケースはほとんど発生していない。モニタリングが困難でセンシティブな活動であることに変わりはないが、事業の進捗に影響を及ぼすものにはなっていない。